

## 里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	(地域レベルでの取組基盤の整備)協働と持続性確保のための枠組み・体制の整備
手法名	春蘭の里 地域の自立をめざす農家民泊の手法
主体	石川県能登町宮地地区(春蘭の里)
背景 (地域の課題)	能登半島の中でも山間にある能登町宮地地区では、第一次産業の低迷、過疎高齢化などの問題を抱えており、何とか第一次産業を活性化し地域の自立を目指そうと、「一億円の地場産業をつくろう」と地元有志で活動を開始。山野草、山菜の加工販売、特産品開発などに着手したが、消費者に現地にきてもらうことが必要と、地域をあげてグリーンツーリズム、農家民泊に取り組むこととした。
手法/方策の詳細	<p>春蘭の里は、2009年には3000人が訪れる農家民泊の里になった。その手法のポイントは以下の点である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地のものに徹底的にこだわる 農家民泊では地域内のものだけを使うことに徹底。食器は輪島塗、料理の食材は徹底的に地場のものにこだわる。能登は海辺には民宿などがたくさんあり、おいしい海の幸が食べられるため、山間地に位置する宮地では刺身などはださず、山のもの、畑のもの、川魚などを出す。酒も地元産の米と水を酒蔵に持って行き、オリジナルの地酒をつくっている。このようなこだわりで、海辺にはない魅力を出している。</li> <li>・農家との心のふれあいを大切にする 宿泊のホストとなる農家は、体験活動の指導をし一緒に体を動かし、食事は囲炉裏を囲み家族と団らんしながらとり、心の交流を図る。2泊3日も生活をともにすると、すっかり心打ち解けることができる。</li> <li>・継続できる農家手取り価格の確保 価格は、農家手取り8,500円/泊としている(旅行会社との提携では、マージン1000円を顧客側に負担してもらうこととし、外部提示価格は9,500円/泊)。その価格でも需要がある。海の体験と山の体験とを組み合わせたいというところから引き合いがある。他の地域では7,000円/泊のうち2割を事務局がとり農家手取り5,600円という例があるというが、春蘭の里では、その価格では農家は続けられないとして、上記の価格を維持。その代わりに、ここでしか体験できないこと、地場産へのこだわりを大事にする。また、やってくる子どもたちとの心のふれあいを大事にしている。月収40万を目指して、仕事として成り立たせ過疎に歯止めをかけようと努めている。</li> <li>・受入地域の拡がり 「春蘭の里」を、エリアではなく、考え方、コンセプトととらえ、同様の体制で受け入れることができる農家の仲間を増やし、受入体制を拡充、現在では隣の集落へと受入宿が広がっていつている。広報においては、それぞれの農家の個性を見せるようにしている。ネットワークを拡大する方針。</li> <li>・廃校を利用した体験交流施設 廃校を利用して体験交流・宿泊施設「こぶし」を開設。教室を和室の宿泊室に改修し、各部屋に流し、バス・トイレをつけた。将来、地域の福祉施設としても利用できるよう設計した。改装した10部屋は地域の人にオーナーになってもらい、月17000円。その収入で光熱費等をまかなう。宿泊による収入は全てオーナーの手に還元する仕組みとしている。</li> </ul>
手法・技術的視点	春蘭の里では、どの民泊先でも、宿泊者が同様に「心のふれあい」や「地のものへのこだわり」を味わうことができるよう、料理の勉強会を行うなど、「春蘭の里」の受入先として一定の質を維持するための取組も行っている。
備考	里なび研修会in石川 多田喜一郎 春蘭の里実行委員会